

2020 年度

大東企業 いいね！ 探し プロジェクト：SDGs 編

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



大阪産業大学経営学部経営学科
矢寺ゼミナール
大東市
大東商工会議所

はじめに

「大東企業“いいね！”探しプロジェクト」は、だいたい産業活性化協議会（大東商工会議所、大東市、大阪産業大学）の一つのプロジェクトとして、大東市内の企業のご協力のもと、大阪産業大学経営学部経営学科矢寺ゼミナールの学生を中心に行われております。このプロジェクトをとおして、大阪産業大学の学生の地元企業についての認識を高めるとともに、調査協力企業に対しては、学生が企業のどのような所に魅力を感じているのかを明らかにすることによって、自社の良いところを再確認し、さらに大東市内の企業の新規雇用促進に繋げることを目的としています。

2020年度のプロジェクトは、SDGs（持続可能な開発目標）に関する大東市内の企業の取り組みを明らかにするという目的のもとスタートしました。2020年9月下旬から、学生（12名：3人、4グループ）が、大東市内の企業（4社）を訪問、職場見学、インタビューを行い、各企業の注目すべきSDGsの取り組みを、本報告書にまとめました。

新型コロナウイルス感染症による甚大なる影響の中にもかかわらず、ご協力いただきました多くの皆様、誠にありがとうございました。企業様におかれましては、さまざまな制限がある営業の最中であるにもかかわらず、プロジェクトに賛同、ご協力をいただきました。このような状況でプロジェクトを行うことができたこと、改めて、感謝申し上げます。大学においても、講義がオンライン（非対面）で行われるなど、プロジェクトの遂行において問題が生じ、学生たちは訪問の初日に初めて顔を合わせるなど、例年では考えられない状況でプロジェクトをスタートすることになりました。今回のプロジェクトを通じて、学生たちはSDGsに関する活動はもとより、企業の現場を目の当たりにすることによって、今後の自身のキャリアにも良い影響があったものと思っております。

今回の活動と本報告書が、学生自身のみならず、ご協力いただいた企業様をはじめ、大東市内の企業様のお役に立てることができましたら幸いです。

今後ともご協力、ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大阪産業大学経営学部経営学科 准教授 矢寺 顕行

報告書作成

大阪産業大学経営学部経営学科矢寺ゼミナールメンバー

市原永遠	岩澤賢伍	川端直輝	谷口竜也	塚本将初	鳥越優希
檜田 聡	南本珠樹	森 海斗	山口直也	山田遼汰	脇 瑠冴

大東企業 いいね！探しプロジェクト： SDGs 編

—目次—

はじめに	(1)
NPO 法人 夢づくりコミュニティ	(3)
有限会社 森永商会	(6)
創作工房 一志家具製作所	(9)
株式会社 エムユープリント	(12)



NPO法人

大東夢づくりコミュニティ（だいとうFM）

NPO 法人大東夢づくりコミュニティは、平成 12 年 12 月 12 日に立ち上げられた「だいとう FM」（当時は電波放送）に始まり、平成 15 年 1 月 16 日に NPO 法人化され、誕生した。大東夢づくりコミュニティは、地域活性化を目的にイベント企画、ラジオ、フリースペースの運営を行っている。夢づくりコミュニティの様々な取り組みは SDGs のどのような項目を達成しているのだろうか？

インターネットラジオ局「だいとう FM」は、一般の人でもラジオ配信に参加することができ、公開収録も可能で、スタジオは簡易ステージとしての使用も可能である。現在は落語の配信や大東市内の企業・事業紹介など大東市の街のいろいろな方が出演し配信を行っている。大阪産業大学吹奏楽部のメンバーによるトーク番組「吹ラジ!!!」なども配信している。

3 目目の「フリースペース運営」では、ラジオスタジオの簡易ステージを舞台として利用し、落語会などを行なっ

主な事業内容

大東夢づくりコミュニティの主な事業は、「イベント企画」「ラジオ配信」「フリースペース運営」の 3 つである。

1 目目の「イベント」では、スマイルウェディング、愛あい広場、大東七夕星まつりなど様々なイベントに携わっている。スマイルウェディングは、大東市スマイルミネーションの期間に開催されている「公開人前結婚式」のことである。これは大東市に在住の人を対象に、市長立会いのもと「大東市の幸せの象徴として、結婚式を挙げてもらう」というイベントである。愛あい広場は、体に不自由を感じる人の立場に立った参加・体験型のイベントで、車いすに乗る体験ができたたり、手話を学んだりと普段ではできないような体験が味わえるイベントである。

2 目目の「ラジオ」について、これは、夢づくりコミュニティの最初の事業でもある。

だいとう FM の番組一覧

番組一覧

🎧大東ええトコ倶楽部



グリーングラス代表の「せきやん」が、ゲストをお迎えして、大東市のええトコ、ええ人、ええモンを紹介していく番組です！

🎧吹ラジ!!!



大阪産業大学文化会吹奏楽部の有志メンバーによるトークバラエティ番組です！部の活動やメンバーについてお話しします！

🎧わくわくチャンネル



仕事や地域活動を頑張っている方や学校の先生、生徒さんをゲストにお迎えして、楽しく役に立つ様々な情報をお届けします。

🎧住道寄席 公開収録



夢づくりコミュニティで開催している「住道寄席」をお楽しみいただけます。ラジオで聞いても楽しい落語！

🎧松井のお金にまつわるエトセトラ



税理士・経営コンサルタントの松井孝亮がお金にまつわる様々なお話を分かりやすくお伝えします！

🎧辰二郎の「がらく・た話」



河内音頭の浪花家辰二郎によるフリートーク番組。伝統芸能・文化の情報のほか、辰二郎の日常トークも満載の30分！

🎧純喫茶TOMOKO



NPO法人 大東夢づくりコミュニティ代表の「ハーブ」さん歌いTomokoがお送りする。気軽なトークバラエティ番組です。

🎧夢づくりコミュニティ



大東市の会社紹介や事業紹介などの特別番組。大東のまちのいろいろな方にご出演いただいています！

🎧十川ももこの「悲しいけど、ここDAITOなのよね」



大東市野崎に本拠地を置く演歌歌手の十川ももこが、大好きな大東市の情報やガンブラについて熱く語ります！

ている。ラジオ収録用機材などをレンタルすることも可能であり、音楽やITなどの教室も行なっている。また、ハンドメイドの販売や展示などもなっている。店舗のスペースは、アイデア次第で様々な用途で活用されている。



ラジオを通じて教育を促進

ラジオ配信事業やフリースペースで行われる教室では、様々な情報を発信することで、教育の促進が行われている。

「わくわくチャンネル」という番組では小・中・高校生の将来の夢を実現するために、様々な情報を提供し、応援する番組である。

情報化の進展や、近年の新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでよりもパソコンやスマートフォンなどの情報通信機器の使い方を理解する必要性が高まっている。しかし、誰もがそうした機器を難なく使いこなせるわけではない。そこで、これらIT機器のちょっとした疑問を解決するための教室が開講されている。高齢者をはじめとして、IT機器が苦手な人は、誰でも気軽に訪れることが可能である。

また、事業内容でも触れたように、だいたいFMは一般の人でもラジオ配信に参加することができる。公開収録も可能で、スタジオは簡易ステージとしての使用も可能である。このようなスペースの提供は、子供が発信したいと思わせる場をつくることにつながり、子供の積極性の向上にもつながる。



イベント事業として行われている「愛あい広場」は、人々が体の不自由を感じる人の気持ちを少しでも理解するための教育の場である。彼らがどのようなことに困難を抱えているのか、その時にどういう気持ちになるかを理解することによって、そういった人々と関わること、親切になること、といった日常生活の気持ちの変化を与えることが可能になる。



女性のコミュニティ、生活を支える

女性は結婚をし、家庭に入った場合どうしても新しいコミュニティが構築しにくくなってしまう。フリースペースの運営を行うことにより、ママさんのコミュニティの構築に役立て、少しでも気持ちが豊かになるための手助けを行っている。

フリースペースでは地域のママさんたちのハンドメイドの商品の展示、販売が行われている。そこでママさん同士がつながり、新たな居場所となっていく。

女性に対する支援の試みは、大東市の「子育てするなら大都市よりも大東市」というキャッチフレーズと関係している。女性だけでなく、親子の居場所づくりを通じた子育て支援にも役立っている。



地域に関わり、地域貢献のネットワークを広げる

人は誰でも、好きなこと、得意なことがあり、自分自身ではあたりまえのことであっても、他の人にとってはすごく役に立つということもある。

前述のスマイルウェディングでも、小物類やヘアメイク、写真撮影等も地域の女性たちが活躍。業者に負けない素晴らしい内容にしている。例えば、ある先生がこのスマイルウェディングで挙式を挙げると決まった際には、その生徒たちが作ったティアラを身に付け、花嫁として登場した。他にも設備関係などでも地域の人の協力を得ることによ

り、新郎新婦の意向に沿った結婚式を行っている。この公開結婚式は地域の人の協力や想い、手作りだからこそその思いやりがいっぱいに詰まった素敵な結婚式となっている。

地域活動に積極的に参加することで、自分自身の特技で地域に貢献したいという同じ思いの人の輪が広がり、新しいアイデアが生まれ互いに磨きあい、より地域に貢献できる仕組みづくりに取り組んでいる。



イベント、ラジオを通じた地域活性化

スマイルウェディングのイベントでは新郎新婦に大東市の「笑顔のシンボル」になってもらい、活気あふれる笑顔の街の風景を作り出している。

ラジオなどの情報発信の場を通して、地域の人と人との繋がりを広げる役割を担う。結果として、そのつながりが活気を盛り上げ、笑顔あふれる街並みとしての大東市をつくりあげている。

イベント業やラジオなどを行うことにより大東市の街が活性化され活気あふれる形につながる。その過程で構築された、人脈（人の輪）が次の SDGs 17 の項目「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる。そこからまた回り回って、協力しあうことにより、さらなる町の発展につながっていく。



その他の SDGs 活動



店舗の棚や、看板などの備品は地域の人から頂いたものの再利用や廃材を使用して作られている。例えば、地域の人で作ったハンドメイドの品を置く棚は、眼鏡屋さんのメガネを展示するガラス棚を使用している。他にも配布、掲載するチラシはグリーンマークの付いた再生紙の使用や、捨てるものを減らすなど、環境にやさしい行動を心掛けている。

フリースペースの提供を通じて、子供のいる方など、一般企業などの長時間拘束されてしまう点などで長く働くということが難しいかたへの活躍の場を提供している。

有限会社 森永商会

森永商会は昭和 48 年 4 月、辻本皓宥氏(現・会長)が大東市諸福にて創業。平成 22 年に本社を現在地に移転した。同社は、潤滑油・スプレー製品などを製造業に販売しており、「さまざまな困った問題を見つけ出し、滑らかに解決して、お客様も自社も円滑な関係を築き共に発展していこう」という経営理念のもと、製造業をサポートできる会社を目指している。

主な事業内容

基本的な業務として、工業用潤滑油やグリース、ケミカル製品の販売、オイル交換・ろ過作業などの作業サービス、クーリングタワー（冷却塔）・冷却水配管中の洗浄作業、また危険物の消防法に基づいた管理・改善提案も積極的に行なっている。同社における仕事のやりがいは、「トラブルを未然に防ぐことができたというお客様の声」である。顧客への提案力と信頼関係を第一に考えている。「人は財産である」と考える社長の辻本聡氏の考えのもと、「人との繋がり」を重視する。100 社以上のメーカー製品を取り扱い、多様な製品の中から顧客の要望に沿った提案を行い、現在、年間 100 件以上のサービス作業を行なっている。緊急性の高い製品を常備在庫することで即納対応できる迅速さ、それぞれの顧客に寄り添った提案が、同社の強みである。

顧客との繋がり確保する為にも、SDGs に対する取り組みは近年重要さを増している。取引先が SDGs を重視した取り組みを行なっていれば、当然、提供するサービスも、それを踏まえた対応を求められるからである。同社の SDGs の取り組みは、顧客に提供するサービスにとどまらず、自社のマネジメントにも及んでいる。



兄弟のパートナーシップが生み出す事業改革

辻本聡氏は、父である皓宥氏が元気なうちの事業承継を決意し、2010 年に社長に就任した。就任後は営業活動に励むが明確なビジョンが持てず、社長仲間と関わる度に焦る時期がしばらく続いた。そんな聡氏に転機が訪れたのは、地域の繋がりから後継社長や社長候補が集まる勉強会に参加したことだった。そこでは、課題を抱えながらも行動し、結果を出し続ける仲間がいた。同じ悩みを持つ仲間との学びで大きな刺激を受け、現在の「困った時の森永商会」につながる理念、会社の方向性を明確化し、実践することとなった。



辻本聡社長と訪問グループ（森永商会 HP より）

聡氏が社長の心構えを持った頃、相棒となる弟の豊氏が入社した。豊氏は他社でキャリアを積んでいたが、「森永商会に入って欲しい」と聡氏に頼まれた。当時、森永商会では社員の高齢化が大きな問題となっており、若い力が必要だった。豊氏の入社後、主に管理面で改革が行われた。

新たな手法の導入は、社員に混乱を与える可能性を持つ。しかし、聡氏は、豊氏が新たにやろうとすることを否定せず「良い放任主義」を貫いた。

結果、手書きの台帳はシステム上で管理され、営業情報も共有できるようになった。先述のように、同社では緊急性が高い商品が重要なサービスにつながる為、在庫や納期管理が重要となる。また、Web上での情報発信にも注力し、新たな受注にも繋がっている。「自分ができない分野に注力し、結果に繋がっている。本当に感謝しています」と力強く聡氏は言い切る。兄弟だからたまに意見をぶつけ合うこともあるが、一緒に育ってきたからこそ、家業を大切に思う気持ちは大きい。

4 質の高い教育を みんなに



現場とコミュニケーションを 重視した従業員の育成

森永商会は従業員は6人でそのうち3人がパートパートタイマーである。同社では、実際に仕事を行いながら、その内容を身につけていく、OJTが基本的だ。業務内容は主に顧客への納品と営業であり、これらの業務は通常1人で行うため、初めは既存の従業員に同行し、慣れてくると1人で作業を行うようにしていく。最初は、分からなくても、先輩の従業員に教えてもらいながら、現場で経験を積ませる。1人で出来るようになった実績が、やる気にもつながる。

森永商会で働くにあたって資格条件は必要ない。ただし、顧客との最低限のコミュニケーションが取れることは重要である。コミュニケーションが取れると、顧客との継続的な取引を通じて、例えば、納品の際に工場が床が油で汚れたりしていれば「汚れているので掃除しましょうか?」

と、提案が生まれ、新たな関係づくりのきっかけになる。

1人で対応できないことがあれば2人で対応するが、1人で行う仕事に関しては、1日に5件から10件の取引先を回る。オイル交換の他に、一部機械の修理にも対応しているが、これは元保全担当に依頼し、対応している。大手では手の届かない、難しい仕事を難なくこなすことで、顧客のニーズに応えている。



エネルギーをみんなに そしてクリーンに

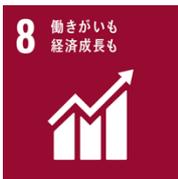
森永商会はオイル交換などを行っているのだが、排出された廃油の取り扱いがSDGsに関して重要である。同社は、産業廃棄物収集運搬許可（大阪府、奈良県）と毒劇物一般販売業（大阪府）を持つが、環境に配慮した取り組みを行なっている。

廃油の処理に関しては、例えば、銭湯に燃料として引き取ってもらい、再利用を行ったり、正式に処理に関する書類が必要であれば、廃油の処分許可を持つ処理業者に持ち込んでいる。また、使用済みの缶などは、鉄屑などのスクラップ業者に引き取ってもらっている。



廃油をこの装置でろ過する

森永商会は自社でも廃油のリサイクル（再生）を行なっている。水と油が混じった物をろ過する機械があり、廃油の中に入り込んだ水分やスラッジを、フィルターを通して取り除いている。廃油量を大幅に削減でき、環境にもよく、コストパフォーマンスにも優れている。また、油にも性能面での寿命があり、長寿命なほど値段が高いが、油の交換サイクルが伸びてランニングコストに優れる。森永商会では環境への配慮のために、廃油の削減に努めている。



働きがいも経済成長も

森永商会の経営理念は「様々な困った問題を見つけ出し、滑らかに解決して、お客様も自社もと円滑な関係を築き、共に発展していこう」である。製造業が困っていることを解決・サポートする。同社の強みは、大手では手を出せない、現場での取引先とのコミュニケーションを通じたニッチな提案である。

また、取引先のエリアを絞ることで、1日に訪問できる取引先を効率良くコントロールしている。主に車で30分以内（10km圏内）の範囲である。このことは、従業員の勤務時間にも影響を与えている。通常、勤務時間は朝の8時半から夕方17時半で残業はほとんどない。工場が長期休暇に入る連休前は繁忙期であるが、同業他社に手伝ってもらうなどして対応している。

油危険物を取り扱う企業であるため、漏電などの火による火災には注意を怠らない。他にも薬品などを扱うときに

は換気を行うなど、従業員の安全への配慮も欠かさない。

このように森永商会には、働きやすい職場環境があり、やりがいを感じやすい仕事内容であることがうかがえる。



森永商会のこれから

油という製品には良い面もあるが環境に悪いという側面もある。今世界では環境に良いものを使うという流れの中、主軸の商品は変化し、油を使わない機械が増えてきているという動きもある。油を扱う業界にとっては厳しい状況でもあるかもしれないが、これから生き残っていくためにも、新たな商品・サービスへのシフトにも力を注いでいる。



インタビューの様子

創作工房一志家具製作所



主な事業内容

創作工房一志家具製作所は、「望むものを作り上げるプロフェッショナルでありたい」、という思いで、代表である市川一志氏が独立開業した企業である。別注家具製造の職人として培ってきた経験と知識を活かして、顧客の「夢、希望、イメージ」を形にしていくことを使命とし、柔軟な発想とチャレンジで、まだないものを探究し続ける工房でありたいという思いがある。

製作所に入ってまず目につくのは、製作途中のおしゃれな家具だ。そのほかにも、設備も整理整頓されていて綺麗に扱われており、こだわり抜いた家具を設計から製造まで手がけている職人さんたちの熱い情熱が感じられる。

同社の様々な活動の中で、私たちが注目したのは、幼児教育、作る責任、再生エネルギー、まちづくり、働きがい、の5つである。



子どもたちのために

一志家具は、子ども用の椅子を大東市に寄付している。「全ての人を受けられる公正で質の高い教育の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やす」ために、商品開発の一環として、この活動を行なっている。この子ども用の椅子はもちろん、子どもが座って本を読みやすいように設計されている。

この活動の背後には、一志家具の椅子を使用して育った

子どもたちが、将来家具を購入するとなった時に、一志家具という家具屋さんを思い出してもらえるように、という思いがある。



一志家具の子供用家具

12 つくる責任
つかう責任



木製家具というモノ作りにおける「作る責任」

家具を作るだけでなく、再利用を考え、資源の無駄を減らそうという同社の姿勢に、職人としての「作る責任」を感じ取ることができる。

家具のほとんどは木材を加工して製作されている。そのため、例えば、製作途中でキャンセルが入ってしまうと、他の家具として再利用できなくなってしまう。一志家具では、家具を顧客の要望に応じてデザインしているため、一度加工してしまった木材は形を変えることはできず、キャンセルの時点で廃材となってしまうのである。また、木材は、燃やしても環境に悪いという点がある。

しかし、木材が抱えるこのような問題に対して、一志家

具では、小物や積み木などに加工し、大東市の幼稚園に寄付したりすることで、出来るだけ廃材として出さないように意識されている。

近日、子ども向けのオンライン・ワークショップが開催される予定である。そこでは、製作途中で廃材となってしまった木材を再利用した「ソーマキューブ」というパズルを作るというイベントが企画されている。



整理された職場



再生可能エネルギー

自然に優しい再生可能エネルギーを使っているということも特徴の一つである。近年では国内でも再生可能エネルギーの使用を加速しようとする企業が増えているのは確かだが、まだまだ欧米などと比べるとその数は少ない。例えば、アイスランドでは実に国の約 50%が風力発電を使用しているという。もちろん、日本とアイスランドでは環境が異なるので単純に比較はできないが、そのこともあ

ってか、化石燃料をあまり使わないアイスランドは、世界で最も住みやすい国ランキング3位にランクインしている（国連の社会発展指数 2019 年調べ、日本は世界で 10 位）。化石燃料をあまり使わないアイスランドでは二酸化炭素などの排出が少なく、住みやすい国のランキングに上位ランクインしている理由の一つであると考えられるだろう。

一志家具では、以前は関西電力が利用されていたが、今は GREENA 電気という電力会社に変更している。理由を尋ねたところ、まず「自然に優しい」という言葉が出てきたことが印象的だった。GREENA 電気が 100%再生可能エネルギーを使用しているという面から切り替えたという。GREENA 電気は 100%再生可能エネルギーを使用しており、地球の未来を考える人々のために作られた電力会社である。



持続可能な住居環境、都市の実現

木製の家具は火災が起きてしまうとどうしても燃えてしまう。燃えると、煙が室内に充満し、一酸化炭素中毒や窒息になるリスクがある。火災による死亡原因のほとんどは煙にあるというので、できるだけ煙を出さないようにしたいところではあるのだが、社長が言うには、やはり木製家具なので火災が起きるとどうして燃えてしまうということだった。完成した家具などにニスのようなコーティング剤を塗ると、煙の発生を軽減できるようなものもあることは確かだが、顧客の要望を第一に考える一志家具が作る家具のデザインと離れてしまうため、使用することはできない。

しかし、全く手放しというわけではない。家具を製作する上で、安全、そして耐久性などにも拘ったデザインを考え抜く。例えば、椅子は少し軋むくらいで調整することで、より強度が強くなり、長く使用することができ、また天然木は一板で製作することで、合板よりも無駄なく使用することが環境を守ることにもつながっているということだ。

さらに、将来的には、上記のような工夫によって、一家

庭のみならず、大東市の企業と連携し、家具から一つの都市を変え、発展させる可能性をも視野に入れている。



働きがいのある工場

一志家具では職人三人と代表一人の四人で家具を製作している。一志家具は別注で家具を製作しているが、一つの家具を製作するにあたって、いちから完成まで一人で製作するという。

別注家具を製作している為、取引先の要望にしっかりと応えなければならない。さらに、家具の取引は図面と電話で行われているという。

素人の目線だと図面と電話だけで家具を製作するのは至難の業だと思うが、「提案力」を活かして取引先が満足する家具を製作することが、一志家具の強みである。

出来上がった完成品を見た時、さらにそれが自分のデザインした家具だった時により喜びや働きがいを感じると仰られていた。



一から作る別注の家具

株式会社 エムユープリント

株式会社エムユープリントは、2003年に4人で開業し、今では20名の社員を抱える会社となっている。同社は「社員の人的成長と幸福を追求し、社員がワクワクする会社」を目指している。そのために行っていることがある。それは、「心の勉強会」だ。「心の勉強会」とは、ものの見方・考え方について意見交換し、社員一人一人が思いを共有し、働きやすい環境を作るための工夫である。



環境にやさしいデジタル印刷機を導入

なぜ、プリント業界で異例のデジタル印刷機を導入したのか。その理由は、大きく分けて二つある。1つ目の理由は、シール・ラベル以外の印刷物の可能性を広げたいという思いである。このデジタル印刷機は、幅広いお客様のニーズにも応えることができ、小ロット・短納期・高クオリティな仕上がりにすることが可能となる。従来の印刷機では、金属の型を作らなければならないため、どうしてもスピードに関してはデジタル印刷機に劣ってしまうのである。2つ目の理由は、今回のテーマでもあるSDGsをクリアしている印刷機であるということである。

近年のプリント業界では、環境問題にどう付き合っていくかが課題となっている。その環境問題に対して、多くの課題をクリアしているのが、今回導入した、デジタル印刷機である。

デジタル印刷機の特徴として「必要な量だけ印刷できる」

SDGs に配慮した用紙

エコ間伐紙	間伐材(森林の健全な成長を促すために木を伐採した木材)を利用した環境用紙。名刺や商品タグなどに使用される。
竹紙	日本の竹を100%使用し、エコ間伐紙と同様に間伐竹を利用したエコな竹紙となっている。
バナナペーパー	ザンビアのバナナ農園で大量に廃棄していた「バナナの茎」と日本の持つ「和紙技術」と融合した紙である。そして、SDGsの項目すべてクリアしているのも大きな特徴である。
レザー エコペット	再生ペットを使用し作成した耐水紙。破れにくいうえ鉛筆やボールペンで記入が可能な紙となっている。ハザードマップやサバイバルカードなどに使用されている。

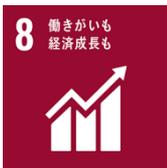
ということが挙げられる。従来の印刷機では、ミス印刷などの余分な紙が多く出てしまうが、デジタル印刷機では、それを少なくできる。さらに、「従来の印刷機よりCO₂を大幅に削減できる」という点も挙げられる。従来の印刷機より約80パーセントのCO₂を削減することができる。そして、これらの特徴を活かしてデジタル印刷機でSDGsを意識した用紙(上表)を作ることが出来たのである。



人本経営について

エムユープリントでは、人本経営に力を入れている。人本経営とは、顧客や株主ではなく、社員とその家族を第一に重視する経営のことである。上田社長は、社員の全員が「エムユープリントで働いていて良かった」と言ってもら

えるような会社にしたいという思いで経営を行っている。人本経営は、「社員を第一に」という理念でできているが、これを経営として成り立たすことは容易ではない。社長が社員を第一に考え、社員を大切にしても、社員が社長に応えることが出来なければ、利益を生むことが難しく、この経営方法は破綻してしまう。この人本経営を成功させるには、互いの信頼関係がなければならぬのである。エムユープリントでは、社長自らの考案で3年前から、毎月第三土曜日に「勉強会」を社員全員で実施している。そのため、社内では仲が良く、活気のある雰囲気となっている。実際に人本経営を取り入れてから、社員のやる気が上がり、効率が良くなり、利益があがるようになったという。また、社員との距離が縮まることにより、個々の新たな一面を知ることができ、その人の優れていることや、苦手なことにも気付くようになったことで、社員の個性と向き合えるようになったという。



勉強会体験

勉強会は、社員同士の交流と人間力を高める場を設けたという考えからスタートした。勉強会のテーマは、社員(2名)が毎月交代で決めている。

今回、私たちは実際に勉強会に参加してきた。勉強会自体が、コロナの影響で、中止になっていたため今月の勉強会は久しぶりの開催であった。

【暖かい歓迎】 私自身、企業の活動に参加したことがなく、前日は緊張でよく眠れなかった。しかし、会社に到着すると、社員さんたちが、爽やかな挨拶で出迎えてくれた。続々と会場に人が集まり、勉強会がスタートした。最初は、私たちの自己紹介から始まった。皆さんが暖かい拍手で歓迎してくれた。

【DVDを鑑賞】 復習のDVD鑑賞では、「伊那食品工業の年輪経営」(伊那食品工業(株))と「すべては社員

の幸せのために社員第一主義」((株)天彦産業)の二つのDVDを鑑賞した。二つの共通点は、上田社長が目指している、人本経営についての内容であることであった。約2時間のDVDを鑑賞したが、その間、私語は一切なく、ペンの走る音だけが、室内に響いた。私はこの光景に唖然とした。学ぶことに非常に意欲的で、熱意を感じた。社会に出てからも勉強という言葉をよく耳にするが、初めてその光景を目の当たりにした。社会人は勉強をするという時間が短くなるため、数少ない時間で、自分自身を高めようとする姿勢が凄まじく、その姿から学ぶことの大切さを教わった。また、このDVDは2年前にも鑑賞し、社長に関しては5、6回目だという。それなのに、ここまでの集中力を発揮できる術を身につけていることに驚いた。

【オフサイドミーティング】 オフサイドミーティングとは、3人1組になり、1人20分間、自分のことを話すというものだ。ミーティングでは、話し手の言うことに対して、否定的な意見を述べてはならない。自分の思いを伝える力と、相手の思いを聞く力を身につける勉強会だ。話すテーマは当日まで発表されないルールになっており、事前準備ができない。今回のテーマは、「好きなこと、もの、ひと」というものであった。3人で順番を決定し、1番目は、社長、次にマネージャー、私の順番であった。1番目の社長は、好きなことに、スポーツを挙げていた。その後は、社長の生い立ちや、今に至るまでのお話を聞かせて頂いた。2番目のマネージャーも、趣味から、好きなことを選択した人生経験、マネージャーという仕事のこと、そして今に至るまでを話された。

実際にオフサイドミーティングに参加させていただき、感じたことがいくつかあった。まずは、オフサイドミーティングの魅力の1つであろう、話の脱線である。「好きなもの、こと、ひと」といった内容から、20分経過したとき全く別の話題になっていた。「人は自分のことを話すのが好き」ということが顕著に現れていた。次に、話の構成の仕方だ。社長も、マネージャーも、まずは好きなことについて、話を始めたが、そこから仕事の話に展開されていた。2人の話の構成は、1つ1つにつながりがあり、展開がスムーズだった。社長は事前の訪問で、社員1人1人

個性があって、この人がどういう人間なのか知ることが大切であるとおっしゃっていたが、オフサイドミーティングはその機会を作り、個人個人の新たな一面を発見する素晴らしい活動であった。

【激論！新型コロナウイルス】 最後に、新型コロナウイルスに対するの討論が行われた。話し合う内容は、事前に発表されており、私たちも意見を述べた。この話し合いで、一番重視されたのは、やはり、社内で感染者が出た場合についてだった。製造会社なので、一人感染者が出るだけで、仕事がストップしてしまうということ。そこで、濃厚接触者になるのを防ぐための具体案や、手洗いうがい、アルコール消毒を確実に行う工夫、自粛期間に発見した各々の感染予防を共有した。やはり、感染者が出ると工場が機能しなくなることを一人一人が自覚し、感染対策の具体策を次々に提案し、会社全体で取り組んでいこうという姿勢が、素晴らしかった。

【まとめ】 社長は「まだまだ学ぶことがたくさんある」と度々口にしていた。人本経営についての本やDVDなどを見て学び、セミナーや勉強会にも参加している。この向上心や行動力がエムユープリントを進化させ続けているのだと感じた。新しいことや物などを否定せず、吸収していこうとする社長の姿勢は誰にでも出来ることではないだろう。「何事も分からないからやらないというのはもっ

たいたい。学ぶことによって得るものはたくさんある、だからこれからも学び続けていきたい」と社長は言う。

エムユープリントの勉強会は、社員同士がお互いを知り、承認し合い、助け合う、学びの場である。夢を語り、本音で話し合える環境づくりの場である。社員の人間の成長と会社の成長につながる活動である。勉強会のような活動を通して会社が丸になっているから、どの社員も「仕事が楽しい、やりがいがあり仕事に熱中できる」という。社員全員が仕事を楽しみ、笑顔と笑いが絶えない素敵な会社それが「エムユープリント」だ。



新しく導入されたデジタル印刷機